

地域保健活動に挑戦 CHALLENGE



三条地域振興局
健康福祉環境部(三条保健所)
地域保健課
主事 小柳 加澄
(平成11年度採用:一般事務)



三条地域振興局
健康福祉環境部(三条保健所)
地域保健課
主任 白井 亜紀
(平成3年度採用:保健師)

<小柳さんコメント>

申請される方のお話をよく聞くことがとても重要です。特に高齢者にとっては申請
手続が複雑なので1回で手続が終了することは少ないものです。そのため「受付票」
をお渡しし確実に不足書類を提出してもらえるようにしています。「受付票」を使用
することで、担当以外の職員が対応するときでも不足書類の確認がスムーズになり、窓
口サービスの向上につながっています。

申請に必要な書類は、加入保険や収入、病気の重症度等によって異なるので、それ
を理解し間違いなくお伝えすることに気を使います。医療保険制度や税制などを広く
理解していないと分かりやすく説明できませんので、毎日が勉強の連続です。

心配そうな表情で来られた方が、無事に申請を済ませて笑顔で帰っていかれるとき
にやりがいを感じています。また病気や介護のことでお困りのことがないか確認し、
白井さんたち保健師さんにバトンタッチをしています。

<小柳さん業務内容>

特定疾患医療費助成の
申請受付※など。



<白井さんコメント>



申請手続に来所されるときは難病と診断されたばかりであったり、また医療機関を変
更するときは病状の悪化など変化が生じ不安を伴う時期なので、小柳さんの声かけによ
ってタイムリーな相談につながります。

私たち保健師は、アンケートや面談を通じて、患者さんや御家族の困りごとや支援の
必要性を把握し、医療機関や介護支援専門員などと連携しながら個別に支援するほか、
同病者間のグループ活動など集団を対象とした支援も行っています。

病気によっては、自宅で人工呼吸器や酸素を使い24時間の介護が必要な方もおられ
るため、介護事業者と連携し医療機器に配慮した介護サービスを提供してもらったり、患
者さんや御家族の希望を実現するために様々な関係機関と連携しています。このような
日々の活動を積み重ね、介護力や病状に関係なく、難病になっても安心して療養生活を送
ることができるようにするための支援ネットワークや体制の構築を目指しています。

さらに、患者さん同士の支え合いも大事だと感じています。患者さんたちがボランティア
アスタフとともにレクリエーションやバスハイクを企画しますのでそのお手伝いをし、
患者さんたちの達成感に満ちた笑顔を見たときにやりがいを感じます。

<白井さん業務内容>
特定疾患(難病)患者の支援、
難病対策の推進など。

<飯田課長代理コメント>



飯田課長代理(右)

Meeting & Discussion

小柳さんは、親身になって話を聞くことができる方です。忙しい
ときでも常に気持ちをリセットして対応できるところがすばらしい
です。申請時は緊張している方がほとんどですが、小柳さんは気持
ちを和らげ、苦勞をねぎらい、ここで相談してみようという雰囲気
を上手に作ってくれます。小柳さんが最初に申請者のニーズをキャ
ッチし、課内の保健師につなげる体制になっています。

白井さんは、地域の医療関係者からの信頼が厚く、地域で患者さ
んを支えるために、病院の医療相談員や訪問看護師、介護支援専門
員、介護サービス事業者の方々と情報交換を頻繁にしています。情
報交換が地域の風通しを良くし、スムーズな連携が生まれてくるの
だと思います。

私たちはチームで業務を進めています。つまりチームの中で
様々な職種の職員が連携し、職員間で情報共有をきちんと行い、県
民サービスの向上につながるよう心掛けています。

※ 特定疾患とは、厚生労働省で指定された「原因不明、治療方法が未確立であり、かつ後遺症を残すおそれが少なくない疾病」で、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症(ALS)などがあります。診断基準が一応確立し、かつ難治度、重症度が高く、比較的患者数が少ない疾患に対して、難病医療費支援助成制度を設け調査研究を行っています。現在では56疾患に対して、医療費の負担を軽減する特定疾患治療研究事業が実施されています。医療費助成の申請窓口は保健所です。